
第1回 すばる小委員会 議事録

日時：2005年1月26日(水) 13:00-17:30

場所：国立天文台 すばる TV 会議室

出席：有本、岩室、太田、片座、唐牛、小林(尚)、千葉、土居、山田(ハワイ)

オブザーバー：郷田

I. 議題

1. 委員長などの選出

光赤外専門委員会にも出席して報告等をするので専門委員であることが望ましい
ということらを顧慮し、全員一致で以下のように決まった。

委員長：有本

副委員長：太田

書記については、委員が議論に専念できるよう三鷹の助手クラスで誰かにお
願ひする。

2. 旧すばる専門委員会からの申し送り事項等(山田)

■旧専門委員会の扱っていた内容

- ・装置開発関連及び評価(昨年は観測装置評価 WG を設置)
- ・TAC の人選とりまとめ
- ・共同利用夜数等の大枠
- ・公募の仕方やカテゴリ
- ・観測所の運営方針や将来計画
- ・予算モニター

■申し送り事項

- ・サイエンスアドバイザリ委員会を作るべき。(これを受けて本小委員会が設
置された)
- ・MOIRCS,FMOS の GT に関する議論もあったが、夜数を 20 夜と確定させたかど
う
かには不定性が残る。
- ・その他、第 41 回専門委員会議事録の最後の部分を参照。

3. すばる小委員会について

■本委員会の役割

旧すばる専門委員会の役割を引き継いでいるが、事務的な事は極力避けて、日本の光赤外分野での一層のサイエンスの発展、他波長、近隣分野からのユーザー拡大等の視点を持ちながら、すばる望遠鏡の戦略的な運用についてのビジョンを観測所やコミュニティに向けて提言していく。具体的には、

- ・短期的ビジョン – MOIRCS、FMOS の運用方法。
- ・中期的ビジョン – 新 AO を含めて5年位のスケールで観測時間枠の設定をどうしていくか。キュー観測、サービス観測、Intensive, strategy 枠?、TOO 等についての考え方。
- ・長期的ビジョン – サイエンスの動向を見据えた、新観測装置の提言をはじめとする、すばる望遠鏡の戦略的な運用。
- ・大学/大学院教育への観点：アーカイブデータのより有効な利用の促進等。
- ・パブリックアウトリーチへの提言。

■他の委員会及びすばる UM との関係

- ・光赤外専門委員会の下部組織。すばる望遠鏡運営方針に関する最高決定機関では無いが、実質的決定機関としての役割を持つと考えられる。
- ・すばる UM は観測所主催ではあるが、ユーザーから選出される世話人に本委員会から UM での議論の方向性を示すという事が考えられる。
また、委員がコミュニティの意見を吸収する場でもある。
- ・TAC とは並列の関係になるが、両小委員会の風通しはよくしておく。
(委員の重複を意識する)

■メンバー

追加メンバーに関して

銀河以外の分野からの委員、他波長(特に ALMA)の委員、観測所の事情がよくわかる委員(台内委員が少ない)、の3点を強化したいという意向で合意した。一方、委員数が多くなると機動性も失われるので、最大2名程を台内から出してはどうかという観点から、光赤外専門委員会に3名を順位をつけて推薦した。

(光赤外専門委員会で候補者を決定の後、台長が最終決定)

また、所長は ex officio として参加することにしよう。

IfA メンバーに関して

この委員会はすばる運用の実質を審議するので、IfA メンバーが参加することを想定する(今回の段階では、役割りの明確化なので参加はなし)。

方法としては、議論の英訳つきが考えられる。

議事録の英訳も必要。

但し、実際のやりかたについては、IfA の意向もくんで所長が判断する。

■情報公開等

議事録は公開する(すばる HP 上など)。光天連のメーリングリストに流す。HP を設置してはという意見もあった。

すばる UM 以外に更に年 1 回程度のシンポジウムのものを開催して、議論の場を設けたい。具体的には夏の岡山 UM とくっつける案が有りうる。

■任期及び開催頻度予定

通常 2 年だが、今回の任期は来年 3 月末まで。年 5~6 回の開催を予定。

4. ハワイ観測所等からの審議事項

4-1. MOIRCS GT 観測の提案

提案書の概要

- ・ 8m クラスで最ワイド撮像装置である時代は短いため、戦略的投資が必要。
- ・ 提案夜数は 50 夜で、広視野を生かして深い撮像分光を行う。

議論の結果

- ・ Deep imaging の性能を評価するということから、今春行う 2-3 夜程度は ET として行うのが妥当(現在まで ET を 6 夜しか消化していないこともある)
春の天体が GT のメインであるが、共同利用の春の部分は満杯であり、スケジュール的には厳しい。5、6 月になるかもしれない。
- ・ GT は 20 夜というのが原則なので、それ以上の部分については、観測所プログラム、intensive とか、戦略枠といった新枠設置等考えられる。
いずれにしても、ある程度オープンな形で、MOIRCS のチームとの共同研究体制を強化していく必要があるであろう。
- ・ MOIRCS のヒアリングを次回の小委員会で行う。

4-2. すばるの今後の 10 年計画について(唐牛)

世界の 8m 級はよい装置がどんどん立ち上がっている。一方で、装置開発費用が大きくなってきているので、国際協力(観測時間交換等)の話も来ている。10 年後も世界の第一線で活躍するための方策を検討して欲しい。

特にどんな装置が今後必要か考えて欲しい。

天文台組織全体を説得するにも長期戦略は重要。

すばる UM 以外にもシンポジウムを持つなどコミュニティと連携をとりながら議論を進めて欲しい。

5. すばる TAC からの審議事項(千葉)

- ・国際共同観測は DDT にできないか。
- ・DEIMOS 枠は今後もあるなら、レフェリーを置くなど審査方法を見直し。
- ・Intensive 枠の大きさはどうか。
- ・サービス観測への応募はあまり増えていないが、増加した場合の対応。
- ・カテゴリー deep survey はやめた方がよいのではないか(high-z と同じ)。
- ・有名フィールドの観測は共同で coordinate してデータを撮るべきではないか。
SMOKA をもっと活用すべき。
=> SMOKA アーカイブ領域のリストをプロポーザル関連の資料として
公開してはどうかという意見があった
- ・プロポーザルの日本語訳を廃止するかどうか

6. 次期すばるプログラム小委員会委員の選出に関して

従来の方法を踏襲し、光天連/TAC それぞれより推薦を受けて当委員会で候補者を絞り、光赤外専門委員会へ送るという手順でよい。方針が光赤外専門委員会で承認されたら、有本委員長から6月に光天連に推薦を依頼し、現 TAC にも推薦を出してもらおう。TAC の任期については、立ち上げがスムーズに行くためには、現行通り親委員会と半年ほどずれているのがよいという結論になった。

II. 報告事項

1. ハワイ観測所からの報告事項

特になし。

2. すばる TAC からの報告

1 プロポーザルに5人のレフェリー(外国人が1、2名含む)をつけている。

各レフェリーの負担が20件以下となるよう、9-10の審査分野を設けている。

S05Aは8月までで、S05Bは9月から2月まで。

次回公募は3月10日頃にアナウンスが出て、4月10日頃がべ切になるだろう。

次回 3月7日(月) 13:00-17:00